MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．７．３１　発行元
第 502 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

今野敏『ベスト表』(再掲)

今号から、各作家ごとの『ベスト表』を再び取り上げていくことにする。最初の頃の『ベスト表』の号を探し出すのに苦労している方もいるだろうと考えたから。以前取り上げた『表』を手直しして呈示してみる。

『ベスト表』の見直し

今野敏の『ベスト表』は第１号で取り上げた。それから３年半。「見直し版」を右に掲げてみた。大幅な入れ替えはしなかった。やはり初期の頃に読んだ「衝撃を受けた本」が上位に来るのが当然。今野敏で言えば『隠蔽捜査シリーズ』が一位になる。次に来るのが『ＳＴ警視庁科学特捜班シリーズ』。

『隠蔽捜査シリーズ』は出版順そのままの順位。その後も安定した内容を保っているが、最近作は今野ミステリとしては平均的な出来になってきている。『ＳＴシリーズ』は出来不出来の差が大きいのが特徴。

たくさんのシリーズ物

今野敏はベストセラー作家になるまでの期間が長かったので、『隠蔽捜査』以前に書いた数々のシリーズ物が存在する。右表の『ビート』や『リオ』は『警視庁強行犯係・樋口顕シリーズ』。『曙光の街』『白夜街道』『凍土の密約』は『倉島警部補シリーズ』。『同期』は『同期シリーズ』となる。今回は『とせい(後に任侠書房に改題)』で始まる『任侠シリーズ』を組み入れたこと、『奏者水滸伝シリーズ』と『特殊防諜班シリーズ』を一冊ずつ入れて見たところが大きな変更点である。

世の中でも再評価されたようで、文庫の新版が出ていることも考慮に入れた結果である。

更なる傑作が生まれる可能性…

今後、右表に掲げた『ベスト表』に入ってくる傑作が生まれるかどうかは予測がつかない。でも、このところ出てくる新作はこじんまりした印象が強くなり、新鮮味にはやや欠けるようだ。現実社会で発生した事件を土台にした新しい視点で次なる作品を書き上げることができれば…、また可能性は広がる気もするのだけれども…。

《今野敏のベスト表》

１．隠蔽捜査
２．果断　隠蔽捜査２
３．疑心　隠蔽捜査３
４．ＳＴ緑の調査ファイル
５．ビート
６．同　期
７．転迷　隠蔽捜査４
８．宰領　隠蔽捜査５
９．ＳＴ赤の調査ファイル
１０．去就　隠蔽捜査６
１１．曙光の街
１２．リオ　警視庁強行犯係樋口顕
１３．半夏生
１４．棲月　隠蔽捜査７
１５．ＳＴ桃太郎伝説ファイル
１６．欠　落
１７．アキハバラ
１８．イコン
１９．ＳＴ警視庁科学特捜班
２０．清明　隠蔽捜査８
２１．黒いモスクワ　ST科学捜査班
２２．ＴＯＫＡＧＥ特殊遊撃捜査隊
２３．残　照
２４．とせい　任侠書房
２５．ＳＴ青の調査ファイル
２６．探花　隠蔽捜査９
２７．熱　波
２８．天網　ＴＯＫＡＧＥ２
２９．奏者水滸伝羅漢集結
３０．任侠学園
３１．確　証
３２．虎の尾　渋谷強行犯係
３３．クローズアップ
３４．夕暴雨
３５．エチュード
３６．特殊防諜班連続誘拐
３７．連写　ＴＯＫＡＧＥ３
３８．二重標的
３９．凍土の密約
４０．ＳＴ毒物殺人
４１．殺人ライセンス
４２．逆風の街
４３．任侠浴場
４４．義闘　族狩り　拳鬼伝
４５．白夜街道

『脈　動』

６月に角川書店から出た本。『野性時代』に連載されたものが単行本になった。祓い師・鬼龍光一シリーズの最新作になる。『鬼龍』『陰陽祓い』『憑物祓い』『豹変』『呪縛』に続く第六作。警察小説なのだが、本シリーズは亡者に憑りつかれた犯罪者などを鬼龍の協力を得て解決するという「伝奇ミステリ」の要素が強い。

今回は、警視庁内での不祥事が続き、組織の瓦解を懸念した生活安全部少年事件課・巡査部長・富野輝彦が鬼龍たちに相談を持ちかける形で展開していく。警視庁に張られていた「結界」に綻びがあるのではないかと疑ったためである。都市に張られていた「結界」と言えば望月麻衣の『わが家は祇園の拝み屋さん』を思い出すが、もちろん作風はまるで違う。半グレの暴力事件がきっかけになり、後ろに控えている暴力団や影の組織などが徐々に見えてくるようになる。富野本人は自覚はないが、「トミ氏」の末裔らしく、追い詰められた場面になると祝詞の真似事を唱えると少しは効果が…。警視庁と三種の神器、結界などを元に戻すことができるのだろうか…。一番活躍するのは鬼龍ではなく…。